

2 「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート」調査の概要

阿 部 晃 士

(社会システム専攻地域政策領域担当)

本稿では、「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート」調査の概要について記す。

1. 調査対象

山形大学小白川キャンパスの周辺地域における安心・安全を考えるため、地域との関わりが深い、小学生の保護者を対象とした。具体的には、山形市立第一小学校、山形市立第五小学校、山形市立第八小学校の3つの小学校の保護者全員である。ただし、同じ学校に兄弟姉妹が通っている家庭では、重複を避けるため、学年が上の児童1名分について回答いただいた。

2. 調査票の設計

調査票は、主に以下の4つの内容から構成した。表紙（記入のお願いと記入上の注意）1ページを含めると、調査票全体でA4版9ページである。

- (1) 日常と災害時における、親族ネットワークと知人ネットワーク
- (2) 防災情報の入手と災害時の避難
- (3) 山形大学や山形大学の学生との関わり
- (4) 回答者自身の属性や家族に関すること

3. 調査の実施と回収状況

調査の実施方法は、自記式の配票調査である。具体的には、以下のように進めた。

- (1) 調査票と依頼状の2つを入れた封筒を、事前に確認したクラス人数分ずつにまとめ、各学校にお届けする。
- (2) 担任の先生より、クラスの児童全員に、封筒のまま配布する。児童は自宅に持ち帰る。
- (3) 保護者は調査票に記入し、封をする。児童が学校に持参する。
- (4) 開封せずに封筒のままクラスごとに集めたものを、そのまま校内でまとめていただき、研究会が受け取りにうかがう。

調査は2013年12月9日（月）から16日（月）にかけて実施した。調査票の配布数は754部で、回答をお寄せいただいた方は3校全体で649名となった（回収率86.1%）。小学校ごとの回答数は、第一小学校が174名、第五小学校が197名、第八小学校が278名である（表1）。

表1 回答者の性別（学校別，％）

性別	小学校			全体
	第一小学校	第五小学校	第八小学校	
男性	16.1	13.2	18.0	16.0
女性	82.8	83.8	81.3	82.4
無回答	1.1	3.0	0.7	1.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
（％の基数）	(174)	(197)	(278)	(649)

表2 回答者の職業（従業上の地位，％）

自営業主（家族以外の雇用者なし）	3.0
自営業主（家族以外の雇用者あり）	1.8
家族従業者	2.9
経営者・重役・役員	2.2
常勤の勤め人（重役やパートなどは除く）	32.4
臨時雇用・パート・アルバイト	30.1
派遣社員，嘱託の従業員	1.6
その他	1.8
無職（専業主婦）	24.2
合計	100.0
（％の基数）	（624）

4. 回答者の属性

回答していただく方の性別は指定しなかったが、内訳は男性が16.0％（104名）、女性が82.4％（535名）、性別未記入が1.5％（10名）である（表1）。小学生の保護者であることから、年齢では30歳代と40歳代が多く、平均は40.5歳（27～59歳）である（表は省略）。

本人の職業（従業上の地位）では、「常勤の勤め人」（32.4％）、「臨時雇用・パート・アルバイト」（30.1％）、「専業主婦」（24.2％）の3つが多く、これらで全体の9割弱（86.7％）を占めている（表2，無回答を除いて集計）。

また、居住の経緯についての回答によると（表は省略）、「生まれたときからずっと山形市に住んでいる」（26.5％）、「子どもの頃に山形市に転入し、ずっと山形市に住んでいる」（4.4％）、「山形市で生まれ育ち、進学や就職などのため転出した後、戻ってきた」（17.1％）などの「山形市出身者」が48.0％、「進学や就職、転勤のため、初めて山形市に住むようになった」（23.7％）、「結婚して、初めて山形市に住むようになった」（21.5％）、「被災等による避難をきっかけに住むようになった」（3.6％）、「その他」（3.1％）などの「それ以外」が52.0％と、ほぼ半々になっている。山形市での居住年数は平均22年（2ヶ月～58年）である。